

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520736

研究課題名(和文) 戊辰戦争史料の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive studies of historical data of the Boshin War

研究代表者

箱石 大 (HAKOISHI, Hiroshi)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：60251477

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：戊辰戦争研究のための史料学の構築を目指し、維新政府文書と諸藩文書という基本的な史料群とともに、海外所在の関係史料をも調査・収集して、その研究成果を公表した。維新政府文書については、各文書群の個別的な性格と相互の関係性を明らかにした。諸藩文書については、戦争届書の生成過程とその機能を解明した。海外史料については、新政府軍の宣伝歌であるトコトンヤレ節が海外にも伝播したことを示す史料の分析で成果があった。

研究成果の概要(英文)：With the aim of constructing a historiography for the purpose of studying the Boshin War, I gathered and surveyed a collection of basic historical sources consisting of documents accumulated by the Meiji Restoration government and domain administrations. I also collected and examined relevant historical sources from overseas locations. I clarified the distinctive qualities of each document of the Meiji Restoration government as well as their interconnectedness. With regard to the documents of the domain administrations, I revealed the process by which battle reports were produced as well as the role they played. As for the overseas material, my analysis revealed that the Meiji Restoration government's military propaganda song, Tokotonyare-bushi, had become known overseas.

研究分野：人文学

キーワード：日本史 近現代史 史料学 戊辰戦争 明治維新

1. 研究開始当初の背景

戊辰戦争とは、歴史学界のみならず一般の人々にとっても依然として高い関心が寄せられている日本史上の重大事件であり、これをテーマとした著作も数多く発表されてきている。しかしながら、それらの著作が根拠としている史料をみても、必ずしも全ての著作が確実な史料を基にして執筆されているとは言い難いのが現状である。また、学術論文であっても、典拠史料の性格を十分に把握した上で利用しているケースは決して多いとは言えない。

今日においても戊辰戦争研究のための基本史料とされているものに、明治政府が編纂した『復古記』(全298巻・357冊)という編纂史料集がある。現在、戊辰戦争をテーマとする学術研究において、『復古記』を利用しない研究はあり得ないといっても過言ではない。けれども、この『復古記』に関してさえ、これまで史学史や思想文化史的な関心から注目されることはあっても、これを歴史研究のための史料として活用するという史料学的な観点から、その編纂の経緯や内容構成上の問題にまで踏み込んで研究されることはほとんどなかった。そうした中で、宮地正人「『復古記』原史料の基礎的研究」(『東京大学史料編纂所研究紀要』第1号、1991年)は、『復古記』の史料学的研究として先駆的な業績である。研究代表者の箱石も、「戊辰戦争史料論 戦状届書に関する考察を中心として」(『明治維新史研究9 明治維新と史料学』吉川弘文館、2010年)によって、『復古記』そのものの史料学的な研究の重要性を指摘して分析を加えたが、本格的な研究はようやくその緒に就いたところである。

既に研究代表者の箱石は、基盤研究(C)「維新政府による情報・宣伝活動の政治史的研究」(研究期間：2009-2011年度)により、戊辰戦争期の維新政府による情報・宣伝活動の実態を明らかにするため、諸藩・民衆・外国人に対する情報・宣伝活動とその影響に関する史料を収集し、これに政治史的な観点から分析を加えるという研究を行なった。この研究により、維新政府が新設した触頭制による諸藩への情報伝達、はやり唄を利用した宣伝活動の解明などで成果を挙げた一方で、戊辰戦争期に時期を限定して研究するからには、戊辰戦争期における維新政府の諸施策総体の中に情報・宣伝活動を位置付ける上でも、戊辰戦争期特有の文書論・史料学を構築することの必要性を痛感するに至った。また研究代表者は、基盤研究(C)「『太政官日誌』を対象にした史料学の構築と戊辰戦争期の社会文化論に関する学際的研究」(研究代表者：藤實久美子、研究期間：2010-2012年度)に研究分担者として参加している。この研究は、維新政府が編集・発行した『太政官日誌』という木版刊行物を書誌学的に分析することによって、戊辰戦争期における社会文化論の学際的研究を進めるものである。これは、あ

くまでも出版物を分析するものであって、文書・記録は研究の対象としておらず、戊辰戦争研究のための史料学の構築を直接の目的としている訳ではないが、その過程で『太政官日誌』を始めとする官版日誌も広義の維新政府文書として位置付けるべきではないかとの課題も浮上してきた。こうした研究成果を踏まえ、研究代表者は、上記の基盤研究の課題を継承・発展させるべく、戊辰戦争研究のための史料学の構築を目指す立場から、より総合的に戊辰戦争史料を研究する本応募研究課題を着想するに至ったものである。

2. 研究の目的

本研究は、近世の幕藩制国家が近代の天皇制国家へと変貌を遂げた明治維新の全過程において、最も重要な転換点となった戊辰戦争の歴史的意義を解明するための基礎的かつ基盤的な研究上の方法論となる史料学の構築を目指し、中央官庁のみならず各地に派遣された総督府の文書を含む維新政府文書、戊辰戦争に参加した諸藩の文書、という最も基本的な史料群を研究の対象とするとともに、従来未紹介であった海外所在の戊辰戦争関係史料をも収集・分析し、戊辰戦争研究のさらなる発展に寄与することを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 維新政府文書の収集・整理とその分析

東京大学史料編纂所が所蔵する「復古記」編纂材料の「復古記原史料」を整理し、目録を作成した上で、その分析を行なう。また、同じく史料編纂所に所蔵されている「復古記」関連史料についても併せて分析する。さらに、国立公文書館が所蔵する「弁事局記」などの中央官庁記録や「東征総督記」など総督府ごとに編纂された諸記録、及びこれに関連する防衛省防衛研究所所蔵の軍務官・兵部省記録類も調査・研究の対象とする。

(2) 戊辰戦争参加諸藩文書の収集とその分析

本研究では、調査の対象を加賀藩(前田家)などに限定し、加賀藩については、金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵加越能文庫史料などから、戊辰戦争関係史料を抽出して収集・分析する。なお、史料収集の方法は、写真撮影によるものとする。

(3) 海外所在戊辰戦争関係史料の収集とその分析

本研究では、調査の対象をドイツ語圏諸国に限定し、ドイツ・オーストリアなどの図書館・図書館・博物館に所蔵されている戊辰戦争関係史料を調査・収集する。なお、史料収集の方法は、デジタル画像データの購入等によるものとする。収集した外国語史料については、研究協力者の助力を得て翻刻・翻訳し、分析を行なう。

(4)研究成果の公開

本研究によって作成した「復古記原史料」の目録情報については、所蔵機関である東京大学史料編纂所の「所蔵史料目録データベース」から検索できるように、順次その準備作業を進める。また、その他の研究成果は、『東京大学史料編纂所報』・『東京大学史料編纂所研究紀要』・『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』などにより公開する。

4. 研究成果

(1) 維新政府文書の収集・整理とその分析

研究協力者石田七奈子氏の協力を得て、現存する維新政府文書の中核である東京大学史料編纂所所蔵「復古記原史料」の整理及び目録データの作成を進めた。この結果、作成済み目録データの修正作業が4873件分完了し、新規の目録データ作成は8014件分が完了した。これらの目録データのうち、確認作業が完了したものから、順次、東京大学史料編纂所の「所蔵史料目録データベース」に登録して一般への公開を開始し、2015年2月末の時点で1030件分の目録データが、同データベースにて公開されている。

なお、並行して史料の内容分析を進めた結果、「復古記原史料」は、主として維新政府の中央官庁に属する弁事という役職に蓄積された文書群であることが判明した。

国立公文書館所蔵文書の調査により、同館所蔵の簿冊群のうち、「雑種公文」の大半と、「記録材料」・「職務進退」・「上書建白」の一部が、元来は「復古記原史料」と一体のものであった可能性が高いことが判明した。

また、維新政府の官掌及び行政官弁事伝達所が作成した「日記」という簿冊群が、諸藩その他から提出された願書・伺書・届書を受理した際の記録であることも判明した。この「日記」には、文書を受け付けた日付順に、その提出者名と文面の主旨を摘録した内容が記されているため、「復古記原史料」や「雑種公文」などに断片的に残されている願書・伺書・届書を、提出年月日順に配列し直すとともに、どの文書が現存し、どの文書が既に失われているのかという点を解明することも可能となる非常に重要な史料であることが確認された。これにより、現存していないものも含め、維新政府に提出された上申文書の全貌を把握することが可能になったと考えられる。

防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室所蔵の「軍務官雑」が、陸軍省旧蔵の記録簿冊の一部であり、戊辰戦争期における維新政府の中央軍事官庁に蓄積された記録原本であること、そして、現在は失われている記録簿冊の一部が、写本として東京大学史料編纂所や国立公文書館などに現存していることなども、調査の結果判明した。

(2) 戊辰戦争参加諸藩文書の収集とその分析

金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵加越

能文庫の加賀藩戊辰戦争関係史料を調査した結果、後年の編纂物とはいえ、前田家編纂方が編纂した「加賀藩北越軍事輯録」が、戊辰戦争の北越戦線における加賀藩全体の動きを網羅的かつ体系的に把握することができる基本史料であることが確認された。さらに、加賀（金沢）藩が明治政府に提出した戦争届書などの書類控えや、諸隊単位の戦史編纂物である「小川隊北越出兵録」・「菘輪隊北越出兵録」なども調査し、これらの史料が、旧藩主家で行なわれた戊辰戦争関係の編纂事業を考察する上で重要な素材となり得るものであることも確認した。

信州大学人文学部日本史研究所所蔵「御用廻状留」・「御用廻状御書付留」を調査し、その内容を分析した。この文書は、維新政府によって信州諸藩の触頭とされた松代藩真田家の京都在番藩士赤羽仙右衛門による戊辰戦争期の記録であり、触下の諸藩に対する政令伝達や官版日誌の交付状況が分かる貴重な史料である。

真田宝物館・国立公文書館・東京大学史料編纂所所蔵の松代藩戊辰戦争関係史料を調査・分析した。とくに、新政府軍に所属した諸藩から維新政府側に提出された戦争届書に着目し、その代表例として、松代藩の戦争届書に関する調査・研究を進め、その作成・提出過程、『太政官日誌』その他の官版日誌への掲載状況、後年の編纂事業における利用の実情などを解明した。

秋田県公文書館所蔵の秋田藩戊辰戦争関係史料を調査し、当初は奥羽越列藩同盟に加わり、のちに脱退した秋田藩が、その後どのように戦争届書を作成し、維新政府側に提出していたのかという問題を検討した。また、これに関連して、国立公文書館所蔵内閣文庫の「佐竹義堯戦争届」が、明治元年十二月に秋田藩が維新政府の弁事役所に提出した戦争届書8冊を合綴した原本であることも判明した。

(3) 海外所在戊辰戦争関係史料の収集とその分析

本研究では、研究協力者のペーター・パンツァー氏と宮田奈々氏の協力を得て、ドイツ及びオーストリア所在の戊辰戦争関係史料を調査した。

戊辰戦争終結以前に本国を出発したオーストリア・ハンガリー帝国の遣日使節が、未だ戦争の帰趨が判明しないため、徳川将軍宛・天皇宛・大名または公卿宛の3通の信任状を持参して来日したという事実は、既にパンツァー氏の研究によって明らかにされているが、本研究ではオーストリア国立文書館に所蔵されているその他の付属史料も含めて再調査し、これらをデジタル画像データで収集した。

ドイツのベルリンにあるプロイセン枢密文書館・ドイツ外務省政治文書館・ベルリン国立図書館を訪問して所蔵史料情報の調査

を行なった。今回は戊辰戦争に直接関係する史料を発見することはできなかったが、幕末日独関係史上重要な史料について閲覧調査することができた。

オーストリアのウィーン楽友協会資料館に所蔵されている戊辰戦争期のはやり唄《トコトンヤレ節》の楽譜を調査した。これは、ハインリヒ・フォン・ボクレットがピアノによる演奏用に編曲した《ミヤサマ》という曲の楽譜で、1888(明治21)年に出版した楽譜集『日本民謡集』に収録されたものであり、同資料館にはヨハネス・ブラームス旧蔵本などを含む4冊が伝存していることが確認された。本研究では楽譜集に付属する関連史料も併せて調査し、デジタル画像データで収集した。その分析結果を含む、これまでの《トコトンヤレ節》に関する調査・研究の成果をまとめ公表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

箱石 大「松代藩真田家の戊辰戦争届書」(真田宝物館研究紀要『松代』第28号、2015年3月、1-29頁)

箱石 大「戊辰戦争期のはやり唄《トコトンヤレ節》」(東京大学史料編纂所編『日本史の森をゆく 史料が語るとっておきの42話』中央公論新社、2014年12月、213-217頁)

箱石 大「戊辰戦争とプロイセン」(日独交流史編集委員会編『日独交流150年の軌跡』雄松堂書店、2013年10月、39-45頁)

箱石 大「京都大学附属図書館所蔵トコトンヤレ節版木調査報告」(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』第58号、2012年7月、25-28頁)

〔学会発表〕(計1件)

箱石 大「庄内藩の戊辰戦争」(鶴岡市立図書館歴史講演会、於・鶴岡市立図書館、2014年9月20日)

〔図書〕(計1件)

箱石 大『戊辰戦争の史料学』(編著、勉誠出版、2013年3月) 総頁数441頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

箱石 大 (HAKOISHI, Hiroshi)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：60251477

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

ペーター・パンツァー (Peter PANTZER)
ボン大学 (ドイツ)・名誉教授

宮田 奈々 (MIYATA, Nana)
オーストリア国立アカデミー近現代史研究所・客員研究員

石田 七奈子 (ISHIDA, Nanako)
総合研究大学院大学・文化科学研究科・日本歴史研究専攻・博士後期課程